



真宗大谷派 本明寺通信

No.6

2007年10月1日発行



花も、草も、木も、みな光に向かう。

(近くの公園にて)

本明寺改築情報



三階立上がり
型枠・配筋
(六月十六日)



四階立上がり
型枠・配筋
(七月三日)



五階立上がり
型枠・配筋
(七月十八日)

工程の大半を費やしたコンクリート打ちも5階まで終わりました。

本明寺からは住職・副住職・坊守が参加して行いました。



上棟式
(八月十六日)



正面玄関



8月16日

メインの出入口となる玄関です。



9月18日

一階
ホール



多目的に使えるホールです。葬儀だけでなくいろいろなことを企画していきたいと思います。

7月17日

一階
階段



8月28日



7月18日

今までの階段よりか広く、一段の高さも低くしました。また、エレベーターも完備しました。



8月28日

二階
客殿



7月18日



8月28日

客殿です。
水場が近いのでお齋の
会場としてお使いいた
だけます。



9月11日

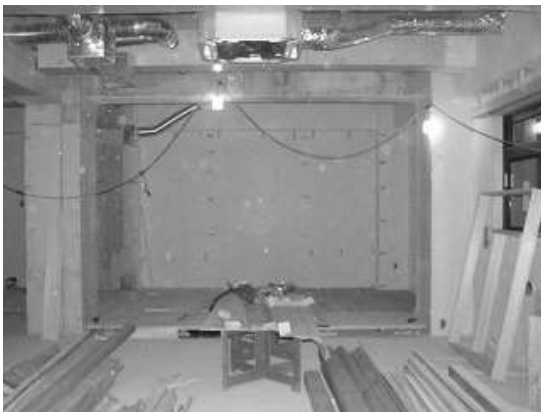
改築情報は本明寺ホームページでもどうぞ!!

<http://www1.ttcn.ne.jp/~honmyouji/>

三階
本堂



8月16日



8月28日

本堂です。
前の本堂の柱を何本
か使っています。



9月18日

落慶法要を12月9日(日)にお勤めします。
詳細は最後のページをご覧ください。

副住職の大まかな活動

東本願寺「真宗会館」

公開講演会

「子どもはぜんぜん、

悪くない」

(七月十日)

今回の公開講演会は「体操のおにいさん」でおなじみの佐藤弘道さんをお迎えして開かれました。佐藤さんはNHK「おおかさんといっしょ」第十代体操のおにいさんとして十二年間、また現在では子ども体操教室「らくがきっこクラブ」の主宰の経験から、子どもと関わるにあたっての公演を頂きました。ちなみに「らくがきっこ

クラブ」の名前の由来は、教科書の落書きのように気軽に運動をして欲しいという願いが込められている。

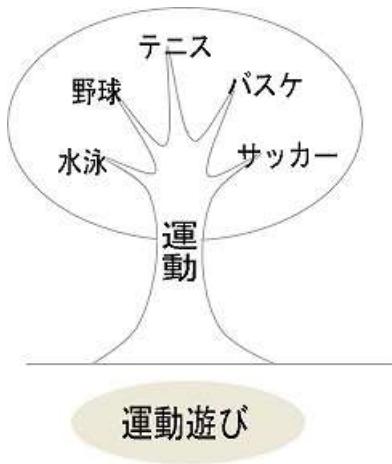
まず佐藤さんは、運動に対して誤解している方が多いことを指摘されました。最近「運動不足」と気にしている人がいるが考えて欲しいです。運動とスポーツは違います。運動とは掃除・洗濯から、歩くこと・呼吸することまで、つまり日々の生活・生きていること自体が運動です。対して、スポーツは特別な人、つまり選手がするものであります。だから、スポーツには怪我が付きものであります。親は子どもたちに運動することよりもスポーツをさせたいと思いますが、スポーツクラブなどで子どもが怪我をしたら親から文句が出るのは



おかしいことです。なぜなら、怪我がつきもののスポーツをさせているのは親だからです。

幼稚園・保育園・小学校低学年くらいの子どものにはスポーツではなく、鬼ごっこや木登りなどの「運動遊び」させて、体を動かすことを好きにさせてあげることが大切です。すると「運動遊び」が根となり、「運動する」という幹ができ

ます。親はその幹に「スポーツ」という枝を付ける手伝いをしてあげるのが理想的であります（左図参照）。もし、幼い頃から英才的にスポーツとして指導していると、そのスポーツが嫌いになるだけでなく、運動すること自体がきらいになってしまふことがあります。また、一つのスポーツを英才的に取り組んでいると挫折したときに立ち直れない場合があります。運動好きな子なら、一つのスポーツで挫折したとしても、他のスポーツで頑張ることができるとおもいます。だから、親と子どもが将来の夢を一緒に話し、子どもにいろいろな経験をさせてあげて、子どもの将来の選択肢を広げてあげることが大切であるとおもいます。また、日本には健康三原則とい



うのがあります。それは①運動・②栄養・③休養です。佐藤さんはスポーツに関わっている立場からおいしく食事をとる、またゆつくり休養をとるためには運動することが大切だと言われました。現代の親子関係は、親が子どもに合わせた生活をするのではなく、子どもが親に合わせた生活をしていることが問題であると思います。『ネットワーク9』

掲載記事より)

はじめてのジェンダー・

ワークショップ

「自分らしく

生きるために」

(六月二十七日)

ジェンダー（性差別）の研修会を、司会進行にアーユース仏教国際協力ネットワークの枝木美香氏をお迎えして行いました。今回の研修会は講義形式の研修会ではなく、ワークショップ形式で行われた。ワークショップとは、参加者同士が同じ問題に向き合い、他者の意見を聞くことで、自分と他者の意見の共通点や違いを見つけ、自分はその問題をどう思っているか整理することを目的としています。今回のワークショップは枝木氏より、

- ・お寺の後継ぎ問題を抱える女性
- ・夫のDV（※2）を受ける妻
- ・上司からセクハラを受ける

派遣社員の女性

の三つの内容の例文が与えられ、お釈迦様が説いた「四諦（苦集滅道）（※1）」という教えのように、

- ①問題の苦しみは何か（苦）
- ②その苦しみの原因は何か（集）
- ③その問題が解決した時の

イメージ（滅）

④その問題が解決するためには、実際に何をしたらよいか（道）
というように、道筋を立てて問題に取り組みました。

この研修会を終えて感じたことは、問題の苦しみ、その苦しみの原因を考える上で、参加者それぞれが問題を考える立場や、問題の見方が違い、問題を多角的に見る

ことが出来ました。その違いの中で、苦しみの原因は問題の当事者同士だけが作っているだけでなく、その周りの人や社会構造にも原因があることを考えさせられました。また、それぞれの問題の根本的問題は、当事者同士が問題の事実には気付いていないことだと思います。私はDVを考えるグループでしたが、夫自身がDVをしていることに気付いていないだけでなく、妻自身がDVを受けていることに気付いていない、DVだと思っていないことが一番の問題ではないかと思いました。

※1：仏教の出発点である「苦」の原因と、「苦」を乗り越えるための道を説いた教えです。

①苦諦：人が生きるという事

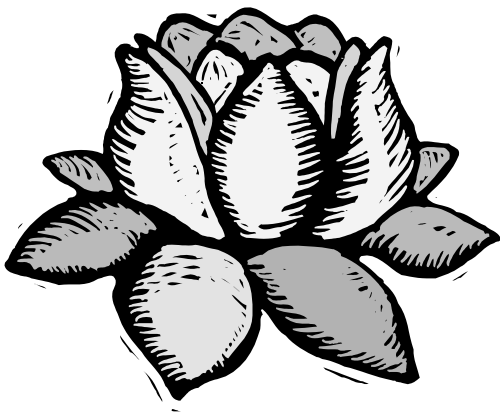
は苦であるということ

②集諦：その苦の原因は人間の執着にあるということ

③滅諦：この苦を滅した境地が悟りであるということ

④道諦：その悟りに到達する方法は八正道であるということ

※2：ドメスティック・バイオレンス、家庭内暴力



新潟県中越沖地震

災害支援ボランティア

i n 柏崎市

(七月二十日)

七月十六日に発生した新潟県中越沖地震の災害支援ボランティアのため柏崎市に行きました。

関越自動車道で柏崎まで向かいましたが、現地に近づくに連れて、道路が波打ち、舗装工事のため片側規制になっていました。高速道路を降りてからも道路の状況はひどく、マンホール付近、川沿いの道、いたるところで陥没や隆起していて、通行止めの道路が多くありました。

今回の私たちの活動内容は柏崎小学校に非難されている方々と、小学校周辺住民、学校自体は休校

中ですが学校開放に来ている子どもたちに対しての炊き出しでした。メニューは野菜たっぷりカレーうどんでした。衛生面を考えてほとんどの食材は冷凍食材を使いました。カレーが出来上がり、いざう

どんを：うどんがない！うどんを買い忘れていました。現地の方と相談をしたところ、支援物資として届けられたレトルトのご飯を使わしていただくことが出来ました。プライバシー保護のため、直接手

渡すことは出来ませんでした。「被災して以来、こんなに多くの野菜を食べられたのが初めてで、うれしかった。」という声が多く聞こえてきました。また、ライフライン（ガス、電気、水道）が復旧していない中で、レトルトの食品があっても、被災時には食べるこ

とが難しいことも、うどんを買い忘れたことよって初めて知ることが出来ました。

最後になりましたが、新潟県中越沖地震により被災された皆様にお見舞い申し上げます。



ご紹介いたします

◆その一

本明寺門徒であります安藤賢司さんよりお手紙を頂きました。ご紹介させていただきたいと思えます。

『明』第五号拝受

「今、いのちが生きている。副住職ご夫妻」
心よりお祝い申し上げます。

本明寺改築情報、東京教区お待ち受け大会参加しているように拝読しております。カットも心暖まります。「御遠忌お待ち受け奉仕団」特集記事等、実に盛り沢山。何と云いましても圧巻は「ご紹介いたします。」

ビール瓶の蓋集めに飛び廻っておられた副住職の姿が浮かびあがって参ります。私も八十二歳。ご健康第一に益々のご隆昌をお祈り申し上げます。

安藤賢司

◆その二

報恩講 寺に育ちし 幼児三才
字もよめぬに 共に経を読む

右の句は本明寺総代を勤められている宝田満男さんのお母さんであります、宝田喜代枝さんが作られた句です。副住職が小さな頃の姿を見て読まれた句です。懐かしさと恥ずかしさでいっぱいになります。



副住職が3歳くらいの写真です。

お待ちしております!!

本堂庫裡落慶法要兼報恩講法要

お待たせいたしました。本明寺本堂庫裡落慶法要兼修本明寺報恩講法要をお勤めいたします。ご家族、友達をお誘いあわせのうえ、ぜひご参詣下さい。

(本明寺門徒の方には別途ご案内をお送りします。それ以外の方は事前に本明寺までご連絡下さい。)

2007年12月9日(日)

12:00 受付

12:45 記念法話 講師 稲垣 俊夫氏
(通覚寺 前住職)

14:00 落慶法要兼報恩講法要

15:30 お齋

あとがき

◇本明寺本堂庫裡がいよいよ完成します。落慶法要がたのしみです。
◇副住職の嫁もお腹の中の子も元気になっています。出産まであと三ヶ月。大事にしていきたいと思えます。
◇宝田さん、安藤さんより副住職の小さな頃のお話をしていただき、そのことを載せさせていただきました。ちよつと恥ずかしいですね(笑)。

発行 真宗大谷派 本明寺

副住職 本田 彰一(釋 彰一)

〒130-0012

東京都墨田区太平二・七-一

TEL 03-3623-1536

FAX 03-3623-1538

E-mail honmyouji@mx1.ttcn.ne.jp

URL

<http://www1.ttcn.ne.jp/~honmyouji/>